

◆大学で学ぶ

| | |
|------------------|-----------|
| 学部での学びについて | ……………p.2 |
| 学科での学びについて | ……………p.6 |
| 卒業論文に関する評価の基準 | ……………p.10 |
| 進級・卒業条件表（学則別表第5） | ……………p.11 |
| カリキュラム全体像 | ……………p.12 |
| カリキュラム表（学則別表第1） | ……………p.13 |

◆教職・学芸員課程、資格

| | |
|-----------------------------|---|
| 教員免許状取得に必要な教職のための科目（学則別表第3） | ……………p.15 |
| 学芸員の資格取得に関する科目（学則別表第4） | ……………p.16 |
| 免許 資格 | https://www.kogakuin.ac.jp/career/license/index.html |

◆事務手続・履修要綱

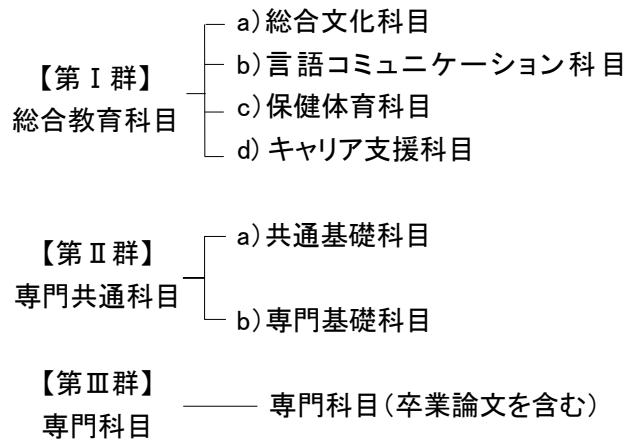
| | |
|----------|-----------|
| 学生生活事務取扱 | ……………p.17 |
| 単位と教育課程 | ……………p.22 |
| 履修登録 | ……………p.25 |
| 授業 | ……………p.26 |
| 試験 | ……………p.29 |
| 成績評価 GPA | ……………p.31 |
| 進級卒業ステップ | ……………p.33 |

◆規程等

| | |
|----------|---|
| 学則 | https://www.kogakuin.ac.jp/about/kogakuin/compliance_rules.html |
| 諸規程 | https://www.kogakuin.ac.jp/student/syllabus_binran/regulations.html |
| 教育研究上の目的 | https://www.kogakuin.ac.jp/about/policy/index.html |

2026年度入学生用
工学部
School of Engineering

◆**教育課程**◆



工学部で何を学ぶか

工学部では、機械・電気という社会の基盤となる幅広い工学領域の中から自分が選択した専門分野について基本となる知識と、それを実際の社会に役立たせる技術として応用する方法を学びます。これらを通じて、現在の知識基盤社会を中核的に支える専門家となるための素養を十分に身につけるための教育プログラムを提供しています。

優れたエンジニアになるためには、現実の工学的現象を正しく認識する観察力や分析力が不可欠ですので、実験・実習・演習などによる課題の解決を図る経験を通じて、これらの素養を十分に養っていきます。また、実社会におけるエンジニアの役割を体感させることも重視し、ものづくりの現場へのインターンシップとしての参加や実社会で活躍している講師による特別講義を受けるなど、社会において果たすべきエンジニアの役割の理解を含む広範な知識を身につけることができる内容となっています。

卒業後は、学んだ専門知識・技術を生かす仕事に就くことはもちろん、専門に関係する幅広い分野で活躍し、さらに新しい得意分野を見つけることもできます。また、大学院へ進んで専門性を高める学生が多いのも特徴です。

◆工学部 各学科共通◆

- 【第Ⅰ群】
総合教育科目
- a) 総合文化科目
 - b) 言語コミュニケーション科目
 - c) 保健体育科目
 - d) キャリア支援科目

- 【第Ⅱ群】
専門共通科目 a) 共通基礎科目

【第Ⅰ群】総合教育科目

a) 総合文化科目

本学は工科系大学であるが、すべての学問と同じく、工学もそれだけで独立したものではなく、他のさまざまな学問や、歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立っている。とりわけ今日では、科学技術や産業のあり方について、さまざまな角度からの再検討、再評価がおこなわれ、全人类的な視野に立った新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は、狭い意味での専門分野だけではなく、できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。幅広い知識、多様な関心、柔軟な感性こそが、専門領域での真に創造的な仕事や、現実社会での的確な判断力、責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は、このような意味で専門教育を支え、研究者として、技術者として、社会人として、豊かな可能性と創造性をもった人間の形成に役立つことを目指して開設される。まず1年次1Qの「工学院大スタディーズ」では、大学生としての主体的な学びを実践するために必要不可欠な力を身につけ、将来を見据えつつ自らのアイデンティティの確立を図る。さらに2年次以降、いわゆる人文科学、社会科学を中心として、広大な「知」の世界への入口となるよう集められた科目群の中から、自らの意志で科目を選択し、学びを深めてゆくことになる。

b) 言語コミュニケーション科目

言語コミュニケーション科目は本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）のうち、「03. 汎用的問題解決力の修得」の「日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる／英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる」学生を育成することを主な目的として設置されており、主管するのは教員推進機構の国際キャリア科である。グローバル化と科学技術が著しく進展する現代において、社会の問題や課題に迅速かつ他者への共感力を持って取り組む力が必要とされている。その力の基礎は、物事を論理的・批判的に考え、適切に言語化し、的確にやり取りする力（つまりコミュニケーション能力）を養う中で培われると考えられ、この能力を養うことが言語コミュニケーション科目の目標である。

必修科目である「Basic English I/II」「Basic Communication I/II」（1年次）、「Basic Academic English I/II」（2年次）では、グローバルエンジニアとして必須となる論理力および思考力そして英語での表現力を身に付ける。また、選択必修科目においては、「ロジカル・ライティングI/II」で日本語での表現活動を行いながら批判的思考の型を学ぶ。また、「ことばの科学A/B」「Introduction to English for Global Communication A/B」「English for Global Communication A/B」では、英語に加え、コミュニケーション手段としての言語とその基盤となる文化の違いを含めた横断的な言語コミュニケーションを学ぶことが目指される。さらに、「Exploration into Cultural Diversity A/B」や「Intensive

English Course」を履修し海外での生活を経験することを通して、多様な文化や価値観を理解し寛容な感性を育むことが目指され、これらの科目を主体的に履修し学修することで、グローバル社会で活躍するためのコミュニケーション能力が育成されることが期待されている。

c)保健体育科目

十分な身体活動は、健全な発育発達や心身の健康保持・増進に必要な不可欠である。また身体活動の実施によって、生活習慣病が予防され、うつや不安の症状が軽減されるとともに、思考力、学習力、総合的な幸福感を高められるとされている。

1年次は「身体・運動科学演習Ⅰ」「身体・運動科学演習Ⅱ」を履修する（共に1単位・必修科目）。これらの科目を通じて、楽しく安全にスポーツを行う基本的知識（ウォームアップ、クールダウン、水分補給等）や健康管理（飲酒、喫煙等）について理解し、さらに身体運動文化としてスポーツや武道を学ぶ。

運動やスポーツの実施により、体力が向上し、筋肉、骨、関節といった運動器の障害を予防することができる。

さらに、自己の内面を観察し、心身のバランスを整える能力を高めることにもつながり、忍耐力や、あきらめない心を養うことができる。対人的には、チームにおける協調性や、他者への礼節や思いやりを学ぶことにより、コミュニケーション能力を高め、活力あふれる社会人になることが期待できる。

2年次以降は「生涯スポーツ1」「生涯スポーツ2」「生涯スポーツ3」を履修することができる（それぞれ1単位・選択科目）。

以上の科目を通して、自らの生活において主体的に運動・スポーツ習慣を確立していくための能力を身に付けていただきたい。

d)キャリア支援科目

キャリア支援科目は本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）のうち、「03. 汎用的問題解決力の修得」を中心に社会人として活躍できる学生を育成することを目的として設置されており、主管するのは主に教員推進機構の国際キャリア科である。

1、2年生から企業等の仕事を体験できる「インターンシップA」「インターンシップB」や、2年生後期に受講できる「キャリアデザイン」、3年次開講科目である「学外研修」（インターンシップ）等、自身の将来について主体的に考えていけるようになることが期待されている。

【第Ⅱ群】専門共通科目

a)共通基礎科目

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立しており、科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要である。共通基礎科目は本学のディプロマポリシー（学位授与の方針）のうち、「01. 基礎知識の修得」の「自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている」学生を育成することを主な目的として設置されており、主管するのは教育推進機構の基礎・教養科である。具体的な科目は各学科のカリキュラムの先頭に記載してある。

微分積分、物理学、化学はどのような分野に進む人にとっても不可欠な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは、各人が独自の道を切り開く上で大きな力になる。単に道具として理解するのではなく、自然現象をどのように捉え、表現しようとしているのか、

また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。ものごとを理解するには、自ら手を動かし、試してみることが肝要である。そのために講義に合わせて演習も用意されている。実験科目も積極的に受講して欲しい。さらに、生物学の最近の発展は著しく、我々の好奇心を大いに刺激するものがある。「生物学概論」で、意欲的に勉強してもらいたい。

また、現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ情報処理関係科目も用意しており、これをマスターしてのち、さらに専門的な知識を身につけて欲しい。

2026年度入学生用
機械工学科
Department of Mechanical Engineering

【第Ⅱ群】
専門共通科目 — a) 共通基礎科目
 b) 専門基礎科目

【第Ⅲ群】
専門科目 ———— 専門科目

☞ [ディプロマ・ポリシー](#)

☞ [カリキュラム・ポリシー](#)

本学の教育理念・目標は「持続型社会をささえる科学技術をめざす」であり、日本で最初につくられた私立工科系学校として、1世紀以上にわたり科学技術の教育を続けており、専門家として科学と技術を身につけ、人間についての深い理解と優れた社会性をもった技術者を世に送りだしてきた。

機械工学科では、新しい機械技術を開拓することのできる、エネルギーおよびデザインの専門性に基づいた幅広い分野に関する問題発見・解決能力、デザイン能力、コミュニケーション能力、自己学習能力、統合能力および技術者倫理を有する技術者を育成する教育プログラムを構築している。実際に物づくりに関する技術を有する、実務に強い機械工学技術者を送り出すことにより、本学の教育理念・目標を達成しようとしている。

☞ **機械工学科の教育**

機械工学の専門領域は、境界領域の拡大と固有領域の深化にともなって極めて幅広いものとなってきた。したがって、機械工学の専門科目全体の数と内容は膨大なものになっている。このすべてを、学部4年間で学ぶのは不可能であるとともにその必要もない。大切なのは、専門科目を体系的に履修することと、自主的、継続的に学習する能力を身につけることである。この観点にたつて、機械工学科では2専攻コース制を採用している。

3年次からは2つのコースに分かれるので、1・2年次にコースの選択を意識しながら勉学するべきである。設置されている2つのコースでそれぞれ別々の専門科目表が示されている。どちらのコースに進んでも卒論着手条件および卒業条件は同じである。専攻コース制と関連して、次のような科目群が用意されている。

1) 第Ⅱ群 専門共通科目

どのような工学分野に進むにしても最低限修得すべき科目である共通基礎科目と、学科の特色がわずかに濃くなる専門基礎科目が配置されている。関連科目には演習や実験などが多く含まれており、単なる知識のつめこみではなく、機械工学の基礎・重要事項が深く理解できるような科目配置になっている。

2) 第三群 専門科目

a) 専門科目 I

機械工学の基礎となる専門科目が2コース共通に配置されている。この中で、必修科目は、機械技術者として修得しておかなければならない科目である。選択必修科目は必修科目に準じ、科目群の中で規定単位数を満たすように単位修得する必要がある。これに対し、選択科目は、将来の進路を考慮して履修選択する科目である。

b) 専門科目 II

3年次からの機械工学科の専門科目である。各コースを特徴づける必修科目、選択必修科目、および2コース共通の選択科目からなり、より実践的な科目の履修や大学院進学者の学習の流れを考慮した科目配置になっている。

2つのコースの特徴は以下の通りである。

① エコエネルギーコース

熱や流体の持つエネルギーと機械の運動エネルギーの相互変換および流れや熱の伝わり方に関する基礎理論を学び、ポンプや水力タービン、内燃機関や蒸気タービン、冷凍機などの機械に加え、地球環境にやさしい機械およびそれらのシステムの設計開発ができる技術者の育成を目指す。4年次の「卒業論文」は、スポーツ流体研究室、流体工学研究室、内燃機関研究室、混相流工学研究室、マルチスケール界面熱流体研究室、熱流体力学研究室および環境熱工学研究室にわかれて研究を行い、自分で課題を選び、論理的思考や分析に基づいてその課題の解決策を立案し、具体的な条件下でその解決策を実施し試行錯誤することにより、これらの能力を身につけるための最後の訓練が行われる。

② メカノデザインコース

機械を構成する金属、高分子、セラミックスなどの材料の性質や試験法などについて理解を深めるとともに、材料の力学的挙動について解析するための基礎理論やコンピュータによる計算技術を学ぶ。これらの知識を基に、ロボット技術やナノ・マイクロ技術に関する最先端加工技術、バイオエンジニアリングに関連する知識と最先端技術、および3D-CADなどの最新設計技術を習得し、あらゆる機械の設計に参画できる技術者の育成を行う。4年次の「卒業論文」は、精密加工研究室、材料力学研究室、機械設計研究室、スポーツ材料力学研究室、高分子材料研究室、人間工学研究室、自動車音響振動研究室、固体力学研究室および知的機械材料研究室にわかれて研究を行い、自分で課題を選び、論理的思考や分析に基づいてその課題の解決策を立案し、具体的な条件下でその解決策を実施し試行錯誤することにより、これらの能力を身につけるための最後の訓練が行われる。

☞ 学習・教育到達目標

機械工学科の教育プログラムでは、本学の教育理念・目標を達成するため、以下に述べる学習・教育到達目標(A)～(E)を設定している。また、カリキュラムの科目と学習・教育到達目標とは必ずしも1対1の関係になっているわけではないが、次ページ以降の科目表には各科目がどの学習・教育到達目標に主体的に対応しているかが示されている。対応関係の詳細については各科目のシラバスに明記してある。

(A) 持続型社会を維持するために、人間社会や地球・地域環境に関する多面的、総合的視点を身につけた技術者の育成

A-1 地球・地域環境における今日的な問題点を文化的な側面も含めて多面的に理解し、説

明できること。

A-2 人間社会と科学技術との関わりを理解し、持続型社会を維持する方法について検討できること。

(B)技術者倫理を身につけた技術者の育成

科学技術が社会等に及ぼす影響および倫理的問題について指摘し、考察できること。

(C)コミュニケーション能力を身につけた技術者の育成

C-1 他者に見せるための簡潔でわかりやすい文章表現ができることと、基本的なルールにしたがって報告書が書けること。

C-2 英語による科学論文・技術文書を読むことができ、その内容を説明できること。

C-3 研究会や卒論発表会等で成果報告を系統立てて行えるとともに、他者の発表に対しても意見・質問等を述べるができること。

(D)エネルギーおよびデザインをキーワードに体系づけられた機械工学の知識と方法論を身につけた技術者の育成

D-1 数学および自然科学の基礎学力を習得すること。

D-2 エネルギーおよびデザインをキーワードに体系づけられた教育手法の下で、機械工学の基礎を中心に専門領域までの知識と方法論を習得すること。

(E)機械工学を応用した問題解決能力およびエンジニアリング・デザイン能力を身につけた技術者の育成

E-1 社会的な背景を考慮した問題や制約条件を把握し、工学的な手法による問題解決策が提案できること。

E-2 目標までの計画を自主的に立て、継続的に改善していくことができること。

E-3 グループ内で、複数のアイデアを客観的に分析・議論し、実現可能な解決策をまとめることができること。

☞学位授与の方針と学習・教育到達目標の対応

全学の学位授与の方針は以下の通りである。

「学位授与の方針」

本学の教育研究の目的を踏まえ、学生が身につけるべき次の能力を修得したものに学位を授与する。

1. 基礎知識の修得

(1) 自然科学に関する基礎知識や概念を身につけている。

(2) 人、社会および文化に関する基礎的な知識や教養を身につけている。

2. 専門分野の知識の修得

・学部学科毎に示される専門分野の基礎的な知識を修得している。

3. 汎用的問題解決力の修得

(1) 現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。

(2) 課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。

(3) 日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。

(4) 英語を用いて、異文化・多文化の中で基礎的なコミュニケーションができる。

4. 道徳的態度と社会性の修得

(1) 自己を律し、継続的な学修を通じて知識を修得し能力を高めることができる。

(2) 豊かな人間性を備え、相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができる。

(3) 人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、高い倫理観を持って自らの社会的責任を果たすことができる。

機械工学科の「2. 専門分野の知識・専門技術の修得」で身につけるべき能力

(1) 機械工学の主要分野四力学（流体力学、熱力学、材料力学、機械力学）・材料・設計および加工の知識を身につけている。

(2) 四力学や機械製図などの知識を総合し、設計やものづくりの問題解決策を提案できる力を身につけている。

全学の学位授与の方針と、機械工学科の学習・教育到達目標との対応関係を以下の表に示す。

学位授与の方針と学習・教育到達目標の対応表

| 学位授与の方針 学習・教育到達目標 | | 1 | | 2 | 3 | | | | 4 | | |
|----------------------|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | (1) | (2) | | (1) | (2) | (3) | (4) | (1) | (2) | (3) |
| (A) | A-1 | | ○ | | | | | | | | |
| | A-2 | | ○ | | | | | | | | |
| (B) | | | | | | | | | | | ○ |
| (C) | C-1 | | | | | | ○ | | | | |
| | C-2 | | | | | | | ○ | | | |
| | C-3 | | | | | | | ○ | | | |
| (D) | D-1 | ○ | | | | | | | | | |
| | D-2 | | | ○ | | | | | | | |
| (E) | E-1 | | | | ○ | ○ | | | ○ | | |
| | E-2 | | | | | | | | | | |
| | E-3 | | | | | | | | | ○ | |

卒業論文に関する評価の基準

| 卒業論文の審査体制・方法について | |
|--|--|
| <p>「卒業論文」は、学部4年生を対象とした必修科目の1つで、いずれかの研究室に所属して、教員の指導のもと、各研究室が推進している研究テーマに関する課題をこれまでに修得した学問を駆使して解決するものです。</p> <p><審査方法> 本科目は大学で学んだ学問の総仕上げに位置づけられ、学生は1年間の課題解決のための活動を通して得られた成果を論文にまとめて指導教員に提出するとともに、論文の内容について発表を行います。 なお、機械工学科と機械システム工学科では、決められた日時までに、論文を学科に提出することが求められます。</p> <p><審査体制> 機械工学科： 学生が提出した論文は、教員に開示され審査されるとともに、発表会で審査されます。その後、全教員による判定会議で審議され、卒業論文の単位取得が決定されます。</p> <p>機械システム工学科： 学生が提出した論文は、教員に開示され審査されるとともに、発表会で審査されます。その後、全教員による判定会議で審議され、卒業論文の単位取得が決定されます。</p> <p>電気電子工学科： 学生が提出した論文は指導教員による審査を受け、口頭発表会では学内外問わず開かれた場で論文の質と量について評価を受けます。口頭発表会での評価と提出された論文の審査が卒業論文の単位取得に直接関係します。</p> | |
| 卒業論文の満たすべき基準について | |
| 工学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部の卒業論文の審査では、工学院大学学則の定める修得単位数を満たしていること。 ・所属する学科の研究領域において専門知識・専門技術を身につけ、現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。 ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。 ・自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。 ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、社会や職業についての知識や技術者として必要な倫理観を備えている。 |
| 機械工学科 | <p>学士 (工学)</p> <p>機械工学の主要分野四力学(流体力学、熱力学、材料力学、機械力学)・材料・設計および加工の知識を身につけている。 四力学や機械製図などの知識を総合し、設計やものづくりの問題解決策を提案できる力を身につけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの社会的・技術的な意味を理解し、取り組むべき課題や問題について技術者倫理の視点をふくめて認識することができる。 ・研究の目標を設定し、その目標の達成に向けて解析・実験の手順などを系統的にまとめることができる。 ・卒業論文の解析・実験結果を吟味して、必要があればその研究手順を能動的に再構築することができる。 ・1年間の成果を卒業論文として冊子にとりまとめることができる。 ・発表会において研究成果を分かりやすく発表することができる。 |
| 機械システム工学科 | <p>学士 (工学)</p> <p>機械工学の主要分野(力学・材料・設計・電子機械・生産工学)の知識を身につけている。 システム工学の主要分野(制御／環境／ロボティクス／システム)の知識を身につけている。 機械工学の主要分野に属する機械要素を用いて構成されたシステムの説明ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの社会的・技術的な意味を理解し、取り組むべき課題や問題について技術者の視点をふくめて認識することができる。 ・研究の目標を設定し、その目標の達成に向けて解析・実験の手順などを系統的にまとめることができる。 ・卒業論文の解析・実験結果を吟味して、必要があればその研究手順を能動的に再構築することができる。 ・1年間の成果を卒業論文として冊子にとりまとめることができる。 ・発表会において研究成果を分かりやすく発表することができる。 |
| 電気電子工学科 | <p>学士 (工学)</p> <p>電気電子工学の主要分野(電気エネルギーの発生・利用・輸送／エレクトロニクス／システム・計測制御)の知識を身につけている。 上記の主要分野の技術課題を解決する手法を習得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの社会的・技術的な意味を理解し、取り組むべき課題や問題について技術者の視点をふくめて認識することができる。 ・研究の目標を設定し、その目標の達成に向けて解析・実験の手順などを系統的にまとめることができる。 ・卒業論文の解析・実験結果を吟味して、必要があればその研究手順を能動的に再構築することができる。 ・1年間の成果を卒業論文として冊子にとりまとめることができる。 ・公開発表会において定められた時間内に研究成果を分かりやすく発表することができる。 |

【学則別表第5の6】工学部機械工学科 進級・卒業条件表(2026年度入学生用)

下記は進級・卒業のための区分での条件として最低単位数を指すものであり、該当区分の受講可能な科目の有無、科目数を指すものではない。

| 群 | 科目区分 | 科目種類 | 3年次科目履修 最低条件単位数 | | | 卒業論文着手 最低条件単位数 | | | 卒業 最低条件単位数 | | | | |
|--------------|--------------------|--------------|--------------------|------|-----------------|-------------------|-----------|-----------------|---------------|------|-----------------|-----------|-----|
| | | | 必修 | 選択必修 | 区分合計 (左記+選択) | 必修 | 選択必修 | 区分合計 (左記+選択) | 必修 | 選択必修 | 区分合計 (左記+選択) | | |
| 【第Ⅰ群】総合教育科目 | a)総合文化科目 | | | | 62 | | 10 | 10 | 104 | | 14 | 14 | 124 |
| | b)言語コミュニケーション科目 | | | | | 6 | 2 | 8 | | 6 | 2 | 8 | |
| | c)保健体育科目 | | | | | 2 | | 2 | | 2 | | 2 | |
| | d)キャリア支援科目 | | | | | | | | | | | | |
| 【第Ⅱ群】専門共通科目 | a)共通基礎科目 | | | | | 15 | 4 (注1) | 19 | | 15 | 4 (注1) | 19 | |
| | b)専門基礎科目 | | | | | 10 | | 10 | | 10 | | 10 | |
| 【第Ⅲ群】専門科目 | 専門科目Ⅰ | | | | | 21 | 4 | 25 | | 21 | 4 | 25 | |
| | 専門科目Ⅱ | 各専攻コース | | | | 6 | 16 | 22 | | 4 | 12 | 16 | |
| | | (コース共通 卒業以外) | | | | | | | | 2 | 6 | 8 | |
| | 専門科目に関する上記以外の必要単位数 | | | | | | | | | | | 4 (注2) | |
| | 専門科目Ⅱ | (コース共通 卒業論文) | | | | | | | | 8 | | 8 | |
| 他学科科目・単位互換科目 | | | | | | | | | | | | | |

〈進級に関わる注意事項〉

(注1) 基礎化学Ⅰ、基礎化学Ⅱ、化学物質論、化学現象論、化学実験より3単位含むこと。

(注2) 【第Ⅲ群】専門科目Ⅰ・Ⅱの中から4単位以上。

〈その他の科目修得ルール〉

■専攻コースの振り分けについて

2年次後期にコースの振り分けが行われ、3年次から各専攻コースに分かれる。専攻コースはエコエネルギー、メカノデザインの2コースである。

3年次以降は、選択したコースごとの専門科目ⅠおよびⅡを履修する。

コースの振り分けは、学生の希望をできるだけ尊重して行うが、特定のコースに偏った場合は定員の範囲内で調整する。

■機械工学科以外の開設科目のうち同一名称もしくはその内容に著しい重複があると認められる科目を重ねて修得しても、

卒業論文着手条件及び卒業条件の単位数には算入されない。詳しい内容については履修の手引きを参照し、学科の掲示に注意すること。

また、他学科の「機械工学概論」に相当する科目も卒業論文着手に必要な単位数に含まれない。

■専門科目で「……Ⅰ」「……Ⅱ」のように番号のついている科目は、番号の小さい科目を先に修得しておくことが望ましい。

もし修得していない場合は、その都度、担当教員の承認を得てから選択すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では以下のとおりとする。

| 条件の種類 | 前期末判定の有無 |
|---------|-----------------|
| 3年次科目履修 | 有 |
| 卒業論文着手 | 無 |
| 卒業 | 有 (学則の定めにより) |

2026年度入学生 機械工学科カリキュラム全体像

※開講期や単位数は次ページのカリキュラム表で確認してください

| 群 | 選必修別 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|-------------|------|---|---|---|-------------------|
| 【第Ⅰ群】総合教育科目 | 必修 | Basic English I Basic English II Basic Communication I Basic Communication II 身体・運動科学演習Ⅰ 身体・運動科学演習Ⅱ | Basic Academic English I Basic Academic English II | | |
| | 選択必修 | 工学院大スタディーズ Intensive English Course English for Global Communication A English for Global Communication B Introduction to English for Global Communication A Introduction to English for Global Communication B ことばの科学A Exploration into Cultural Diversity A Exploration into Cultural Diversity B ロジカル・ライティングⅠ ロジカル・ライティングⅡ | ※総合文化科目（科目名詳細はカリキュラム表を参照） ことばの科学B | | |
| | 選択 | インターンシップA インターンシップB | 生涯スポーツ1 生涯スポーツ2 キャリアデザイン | 生涯スポーツ3 教育者のための遊びの指導法 医薬工協働（PBL） | |
| 【第Ⅱ群】専門共通科目 | 必修 | 微分積分及び演習Ⅰ 微分積分及び演習Ⅱ 微分積分及び演習Ⅲ 微分積分及び演習Ⅳ 情報処理入門 情報処理演習 物理学及び演習Ⅰ 物理学及び演習Ⅱ 物理学及び演習ⅢA 物理学及び演習ⅢC 工業力学及び演習 線形代数及び演習Ⅰ 線形代数及び演習Ⅱ | 工業数学A | 工業数学B | |
| | 選択必修 | 物理学実験 化学実験 | 基礎化学Ⅰ 基礎化学Ⅱ 化学物質論 化学現象論 | | |
| | 選択 | 生物学概論 線形代数統計Ⅰ 線形代数統計Ⅱ | | 数値計算法 | |
| 【第Ⅲ群】専門科目 | 必修 | 機械工学基礎Ⅰ 機械工学基礎Ⅱ 機械実習 | 材料力学及び演習Ⅰ 流れ学Ⅰ及び演習 工業熱力学Ⅰ及び演習 機械実験及び演習 機械製図A 機械製図B | 機械工学設計総合演習 機械工学セミナー 技術者の倫理 | 卒業論文 |
| | 選択必修 | 加工工学概論 機械製図法 | 材料基礎工学 材料力学及び演習Ⅱ 機構学 金属材料工学 機械設計学 | 流れ学Ⅱ 流れ学Ⅲ 工業熱力学Ⅱ 伝熱工学 内燃機関 エンジンシステム 燃焼工学 熱流体機械 機械力学 数値材料力学 材料強度学 CAD/CAM演習 塑性加工学 高分子材料工学 CAD機械製図設計 精密加工学 機械機能設計学 統計学 リサイクルシステム工学 環境制御工学 バイオメカニクス 生命科学概論 知的財産権法 機械振動学 | システム工学 |
| | 選択 | 工学技術概論 | 機械製作法 機械加工演習 プログラミング演習 計測工学 | 学外研修 制御工学 材料試験法 電気工学Ⅰ 電気工学Ⅱ 電気工学実験 応用解析学 複素関数論 応用プログラミング演習 C++プログラミング演習 自動車工学 原子力工学概論 ロボット学 | 数値熱流体工学 航空宇宙工学 |
| その他 | | 材料加工 生物育成 | | 職業指導 | |

2026年度入学生 機械工学科カリキュラム表 (学期別表第一)

| 配当学年 | 選考種別 | 履修期 | 群 | 科目区分 | 科目種類 | 科目名 | 授業形態 | 単位数 | 教職 | 学位授与の方針1 | 学位授与の方針2 | 学位授与の方針3 | 学位授与の方針4 | 備考 |
|-------------|-------------------|--------------|----------------------|---------------------------------------|--|------------------------------------|---------------------------|---------------|------------------------|----------|----------|----------|----------|----|
| 1 | 必修 | 前期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | Basic Communication I | 演習 | 1 | 教職 | 30 | 0 | 70 | 0 | |
| | | | | | | Basic English I | 演習 | 1 | 教職 | 40 | 0 | 60 | 0 | |
| | | | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 保健体育科目 | 演習 | 1 | 教職 | 20 | 0 | 10 | 70 | 0 |
| | | | | | | 情報処理入門 | 講義 | 2 | 教職 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 1Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 線形代数及び演習I | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | 物理学及び演習I | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 線形代数及び演習I | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 線形代数及び演習II | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 2Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 線形代数及び演習II | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | 物理学及び演習II | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 線形代数及び演習II | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 線形代数及び演習III | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 選択 | 前期または後期 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 機械実習 | 実習 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | 0 | |
| | | | | | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | Basic Communication II | 演習 | 1 | 教職 | 30 | 0 |
| | | | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | Basic English II | 演習 | 1 | 教職 | 40 | 0 | 60 | 0 | |
| | | | | | | 保健体育科目 | 演習 | 1 | 教職 | 20 | 0 | 10 | 70 | |
| | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 情報処理演習 | 演習 | 1 | 教職 | 80 | 0 | 20 | 0 | |
| | | | | | | 工業力学演習 | 講義 | 3 | 教職 | 20 | 80 | 0 | 0 | |
| | | 3Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 機械工学基礎II | 講義 | 2 | 0 | 0 | 100 | 0 | | |
| | | | | | | 線形代数及び演習III | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 4Q | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 線形代数及び演習IV | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 物理学及び演習III | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | 3Qまたは4Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 物理学及び演習III | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 物理学及び演習IV | 講義・演習 | 1.5 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| 2 | 必修 | 前期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | 英語コミュニケーションI | 演習 | 1 | 10 | 0 | 70 | 20 | 0 | |
| | | | | | | 英語コミュニケーションII | 講義 | 1 | 10 | 0 | 60 | 60 | | |
| | | 前期または後期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | English for Global Communication A | 演習 | 1 | 20 | 0 | 80 | 0 | | |
| | | | | | | English for Global Communication B | 演習 | 1 | 20 | 0 | 80 | 0 | | |
| | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | Introduction to English for Global Communication A | 演習 | 1 | 20 | 0 | 80 | 0 | | | |
| | | | | | Introduction to English for Global Communication B | 演習 | 1 | 20 | 0 | 80 | 0 | | | |
| | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | ことばの科学A | 演習 | 1 | 20 | 0 | 80 | 0 | | | | |
| | | | | Exploration into Cultural Diversity A | 演習 | 1 | 40 | 0 | 30 | 30 | | | | |
| | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | Exploration into Cultural Diversity B | 演習 | 1 | 40 | 0 | 30 | 30 | | | | |
| | | | | Intensive English Course | 演習 | 2 | 40 | 0 | 60 | 0 | | | | |
| | 後期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | ロジカル・ライティングII | 演習 | 1 | 10 | 0 | 60 | 30 | | | |
| | | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 加工工学概論 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | |
| | 3Qまたは2Qまたは3Qまたは4Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 機械製造法 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | 0 | | |
| | | | | | 化学実験 | 実習 | 1 | 80 | 0 | 20 | 0 | | | |
| | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 物理学実験 | 実習 | 1 | 80 | 0 | 20 | 0 | | | | |
| | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 生物概論 | 講義 | 2 | 100 | 0 | 0 | | | |
| | 選択 | 前期または後期 | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 生物概論 | 講義 | 2 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | 【第I群】総合教育科目 | b) | キャリア支援科目 | インターンシップA | 実習 | 1 | 0 | 20 | 80 |
| 3Q | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | インターンシップB | 実習 | 2 | 0 | 20 | 80 | | | | |
| | | | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 工学技術概論 | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | |
| 4Q | | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 線形代数概論I | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 線形代数概論II | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 | |
| 必修 | 前期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | Basic Academic English I | 演習 | 1 | 教職 | 30 | 0 | 70 | 0 | | |
| | | | | | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 工業数学A | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | |
| | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 材料力学演習I | 講義・演習 | 3 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | | |
| | | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 図たせし及演習 | 講義・演習 | 3 | 教職 | 0 | 100 | 0 | |
| | | 前期または後期 | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 機械実験及演習 | 実習 | 2 | 教職 | 0 | 40 | 30 | 30 | |
| | | | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 機械製造A | 実習 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 |
| | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 機械製造B | 実習 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | | | |
| | | | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 言語コミュニケーション科目 | Basic Academic English II | 演習 | 1 | 教職 | 30 | 0 | 70 | |
| | 後期 | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 工業力学I及演習 | 講義・演習 | 3 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | | |
| | | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 美術I | 講義 | 2 | 教職 | 50 | 0 | 50 |
| | 選択 | 前期 | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 材料基礎工学 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | 0 | |
| | | | | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 基礎化学I | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 |
| 2Q | | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 基礎化学II | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | スポーツ科学 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 |
| 前期または後期 | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 科学論A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | |
| | | | | | 科学論B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 環境経済学 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 教育学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 教育学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 経営学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 経営学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 経済学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 経済学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 芸術学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 芸術学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 現代文化論A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 現代文化論B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 国際関係論A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 国際関係論B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 社会学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 社会学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 社会学思想A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 社会学思想B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 宗教学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 宗教学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 学際学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 学際学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 心療学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 心療学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 身体健康学 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 政治学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 政治学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 哲学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 哲学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 日本国憲法 | 講義 | 2 | 教職 | 40 | 0 | 0 | 60 | | | | |
| | | | 大学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 大学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 文学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 法学A(日本国憲法1単位を含む) | 講義 | 2 | 教職 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | |
| | | | 法学B(日本国憲法1単位を含む) | 講義 | 2 | 教職 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 倫理学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 倫理学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 歴史学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 歴史学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 論理学A | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 論理学B | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | スポーツ・身体文化論 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | 技術者を志す私たちの総合文化プロジェクト | 講義 | 2 | 30 | 0 | 40 | 30 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 中国の言語と文化 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | ドイツの言語と文化 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | フランスの言語と文化 | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | | |
| | | | ことばの科学B | 演習 | 1 | 20 | 0 | 80 | 0 | | | | | |
| 後期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 英語II | 講義 | 2 | 50 | 0 | 0 | 50 | | | | |
| | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 機械設計学 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | |
| | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 機械学 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | | | |
| | | | | 金属材料工学 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | | | |
| | 3Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 材料力学演習II | 講義・演習 | 3 | 教職 | 0 | 100 | 0 | | | |
| | | | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 化学物質論 | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 | |
| 4Q | 【第II群】専門共通科目 | a) | 共通基礎科目 | 化学現象論 | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | 【第II群】専門共通科目 | b) | 専門基礎科目 | 化学物質論 | 講義 | 1 | 100 | 0 | 0 | | |
| 選択 | 前期 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | プログラミング演習 | 演習 | 1 | 教職 | 20 | 80 | 0 | 0 | | |
| | | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 機械製作法 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | |
| | 前期または後期 | 【第I群】総合教育科目 | c) | 保健体育科目 | 計算機工学 | 講義 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | 0 | | |
| | | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 企業スポーツ1 | 演習 | 1 | 10 | 0 | 10 | 80 | |
| | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 企業スポーツ2 | 演習 | 1 | 10 | 0 | 10 | 80 | | | | |
| | | | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | 機械加工演習 | 演習 | 2 | 教職 | 0 | 100 | 0 | |
| 後期 | 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | キャリアデザイン | 講義 | 2 | 10 | 0 | 50 | 40 | | | | |
| | | | | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 材料加工 | 実習 | 2 | 教職 | 20 | 50 | 20 | |
| 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 【第III群】専門科目 | 生物育成 | 実習 | 2 | 教職 | 25 | 50 | 15 | 10 | | | | |
| | | | 【第I群】総合教育科目 | b) | 総合文化科目 | キャリアデザイン | 講義 | 2 | 10 | 0 | 50 | 40 | | |

2026年度入学生 機械工学科カリキュラム表（学則別表第一）

| 配当学年 | 選必修別 | 履修期 | 群 | 科目区分 | 科目種類 | 科目名 | 授業形態 | 単位数 | 教数 | 学位授与の方針1 | 学位授与の方針2 | 学位授与の方針3 | 学位授与の方針4 | 備考 | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|--------------|---------------|--------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|----------|---|----------|-----|-----|---|---|---|--|
| 3 | 必修 | 前期 | 【第II群】専門共通科目 | b) 専門基礎科目 | 工業数学B | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| | | | | | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | 機械工学設計総合演習 | 演習 | 2 | 教数 | 0 | 0 | 100 | 0 | | | | |
| | | 後期 | 前期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | メカノデザインコース | 機械工学設計総合演習 | 演習 | 2 | 教数 | 0 | 0 | 100 | 0 | | | | | |
| | | | | | | 専門科目II | 技術者の倫理 | 講義 | 2 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | | | | | |
| | | | 後期 | 前期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | 機械工学セミナー | 演習 | 2 | 0 | 0 | 80 | 20 | | | | | |
| | | | | | | | メカノデザインコース | 機械工学セミナー | 演習 | 2 | 0 | 0 | 80 | 20 | | | | | |
| | 後期 | | | 前期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | 機械力学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | | | | 工業熱力学II | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | |
| | 選取必修 | 前期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | 伝熱工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | | | | 内燃機関 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | | | | 流体力学II | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | | | | メカノデザインコース | CAD機械製図設計 | 演習 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | | | | 機械工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | | | | 高分子材料工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | | メカノデザインコース | 数値材料力学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | | | | 塑性加工工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | | | | バイオメカニクス | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| | | | | | 後期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | リサイクルシステム工学 | 講義 | 2 | 教数 | 40 | 60 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | | 生命科学概論 | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | | | | | 統計学 | 講義 | 2 | 20 | 60 | 0 | 20 | | | | |
| | | | | | | | | | メカノデザインコース | エンフシステム | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | | | 高度機械 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | | | 伊達工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | |
| | | | | | 選取 | 前期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | 流体力学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | | | CAD/CAM演習 | 演習 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | | | 機械機能設計学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | |
| | 材料強度学 | 講義 | 2 | 教数 | | | | | | 0 | 80 | 20 | 0 | 0 | | | | | |
| 精密加工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | | | | | | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | | | |
| 電子制御工学 | 講義 | 2 | 0 | 100 | | | | | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | |
| 後期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | エコエネルギーコース | 機械振動学 | | | | | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | 知覚計測法 | | | | | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | 電子工学概論 | | | | | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | 材料試験法 | | | | | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | 制御工学 | | | | | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | | | | 電気工学I | | | | | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 前期または後期 | 【第I群】総合教育科目 | a) 基礎教育科目 | c) 基礎教育科目 | C++プログラミング演習 | 演習 | 1 | 20 | 80 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| | | | | 卒業レポート | 演習 | 1 | 10 | 0 | 10 | 80 | | | | | | | | | |
| | | | | 教育者のための選びの指導法 | 講義 | 2 | 40 | 0 | 60 | 0 | | | | | | | | | |
| | | | | 【第I群】総合教育科目 | d) キャリア支援科目 | キャリア支援科目 | 企業実習(PBL) | 講義 | 2 | 0 | 50 | 50 | 0 | | | | | | |
| | | | | | | | 学外研修 | 実習 | 2 | 0 | 0 | 30 | 70 | | | | | | |
| | | | | 後期 | 【第II群】専門共通科目 | b) 専門基礎科目 | 基礎計算 | 基礎計算 | 講義 | 2 | 20 | 80 | 0 | 0 | | | | | |
| 【第III群】専門科目 | 専門科目II | ロボット学 | 講義 | | | | | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | | | |
| | | 応用プログラミング演習 | 演習 | | | | | 1 | 20 | 80 | 0 | 0 | | | | | | | |
| | | 応用解析学 | 講義 | | | | | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | | | |
| 後期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | 自動車工学 | | | | | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | 電気工学II | | | | | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | |
| | | | 電気工学実験 | 実習 | 1 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 通年 | その他 | | | 職業指導 | 講義 | 4 | 教数 | 40 | 0 | 40 | 20 | 左記の科目は教員免許取得に必要な科目であって、「卒業に必要な単位数」に算入することはできない。 | | | | | | | |
| | | | | 卒業論文 | 卒業論文 | 8 | 10 | 20 | 60 | 10 | | | | | | | | | |
| 4 | 必修 | 選取必修 | 前期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | システム工学 | 講義 | 2 | 教数 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | | | |
| | | | | | | 後期 | 【第III群】専門科目 | 専門科目II | 航空宇宙工学 | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | |
| | | | | | | | | | 数値熱流体工学 | 講義 | 2 | 0 | 100 | 0 | 0 | | | | |

別表第3 教員免許状取得に必要な教職のための科目

・「科目区分」欄についての詳細は、教職課程の手引きを参照すること。
 ・各教科の指導法に関する科目（「〇〇教育の理論と方法A、B」）については、取得しようとする免許教科ごとに中学校一種の場合は8単位（A・B両方）、高等学校一種の場合は4単位（A・Bいずれか）以上修得しなければならない。

| 第一欄 | 教科及び教職に関する科目 | 右項の各科目に含めることが必要な事項 | 授業科目名 | 選必修別 | 授業形態 | 学年 | 履修期 | 単位数 | 備考 | |
|-------------|-----------------------------|---|---|-------|------|---------|-------------------|----------------|--|--|
| 第二欄 | 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教科に関する専門的事項 | 別表第1を参照のこと | | | | | | 計20 | |
| | | 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） | 数学教育の理論と方法A | 必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | 高1種免はいずれか1科目必修 | |
| | | | 数学教育の理論と方法B | 必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | | |
| | | | 理科教育の理論と方法A | 必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | 高1種免はいずれか1科目必修 | |
| | | | 理科教育の理論と方法B | 必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | | |
| | | | 技術教育の理論と方法A | 必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | | |
| | | | 技術教育の理論と方法B | 必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | | |
| | | | 情報教育の理論と方法A | 選択必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | いずれか1科目選択必修 | |
| | | | 情報教育の理論と方法B | | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | | |
| | | 工業教育の理論と方法A | 選択必修 | 講義 | 3年 | 通年/集中 | 4単位 | いずれか1科目選択必修 | | |
| 工業教育の理論と方法B | 講義 | 3年 | | 通年/集中 | 4単位 | | | | | |
| 第三欄 | 教育の基礎的理解に関する科目 | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | 教育原論 | 必修 | 講義 | 1年 | 通年 | 4単位 | | |
| | | | 教育史 | 選択 | 講義 | 3年 | 通年 | 4単位 | | |
| | | 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） | 現代教職論 | 必修 | 講義 | 1年 | 前期 | 2単位 | | |
| | | | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） | 学校経営論 | 選択 | 講義 | 3年 | 前期または後期 | 2単位 | |
| | | 教育法規 | 選択 | 講義 | 3年 | 前期または後期 | 2単位 | | | |
| | | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 | 教育心理学 | 必修 | 講義 | 1年 | 後期 | 2単位 | | |
| | | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 | 特別なニーズ教育入門 | 必修 | 講義 | 1年 | 集中 | 1単位 | | |
| | | 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） | 教育課程論 | 必修 | 講義 | 1年 | 集中 | 1単位 | | |
| 第四欄 | 目及び道徳、総合的な学習の指導、教育相談等に関する科目 | 道徳の理論及び指導法 | 道徳教育の理論と方法 | 必修 | 講義 | 1年 | 前期または後期 | 2単位 | 中1種免のみ必修 高1種免は「第六欄」選択科目 | |
| | | 総合的な学習の時間の指導法 ¹ 総合的な探究の時間の指導法 ² | 総合的な学習の時間の理論と方法 | 必修 | 講義 | 1年 | 1Qまたは2Qまたは3Qまたは4Q | 1単位 | ¹ 中1種免 ² 高1種免 | |
| | | 特別活動の指導法 | 特別活動の理論と方法 | 必修 | 講義 | 3年 | 前期 | 2単位 | | |
| | | 教育の方法及び技術 | 教育工学 | 選択 | 講義 | 3年 | 前期 | 2単位 | | |
| | | ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 | 教育方法論（情報通信技術の活用を含む） | 必修 | 講義 | 3年 | 前期または後期 | 2単位 | | |
| | | ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 | 生徒指導論（教育相談及び進路指導を含む） | 必修 | 講義 | 3年 | 通年 | 4単位 | | |
| 第五欄 | 教育実践に関する科目 | 教育実習 | 教育実習指導 | 必修 | 演習 | 3年 | 後期 | 1単位 | | |
| | | | 教育実習A | 必修 | 実習 | 4年 | 通年 | 2単位 | | |
| | | | 教育実習B | 必修 | 実習 | 4年 | 通年 | 2単位 | 中1種免のみ必修 | |
| | | 教職実践演習 | 教職実践演習(中学校高等学校) | 必修 | 演習 | 4年 | 後期 | 2単位 | | |
| 第六欄 | 大専大単科定学が目すにが | 社会教育 | 選択 | 講義 | 1年 | 前期または集中 | 2単位 | | | |
| | | 道徳教育の理論と方法 | 選択 | 講義 | 1年 | 前期または後期 | 2単位 | 高1種免のみ「第六欄」に分類 | | |

別表第4 学芸員の資格取得に関する科目

| 授 業 科 目 | | 授業形態 | 学年 | 履修期 | 単位数 | 備考 | |
|--|-----------------------|---------------------|---------|---------|-----------|----------|--|
| 必修科目 | 社 会 教 育 | 講義 | 1年 | 前期または集中 | 2単位 | 注1) | |
| | 博 物 館 概 論 | 講義 | 1年 | 集中 | 2単位 | | |
| | 博 物 館 経 営 論 | 講義 | 2年 | 集中 | 2単位 | | |
| | 博 物 館 資 料 論 | 講義 | 2年 | 集中 | 2単位 | | |
| | 博 物 館 資 料 保 存 論 | 講義 | 2年 | 集中 | 2単位 | | |
| | 博 物 館 展 示 論 | 講義 | 1年 | 集中 | 2単位 | | |
| | 博 物 館 教 育 論 | 講義 | 1年 | 集中 | 2単位 | | |
| | 博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論 | 講義 | 1年 | 集中 | 2単位 | | |
| 博 物 館 実 習 | 講義・実習 | 3・4年 | 集中 | 3単位 | 3、4年次共に必修 | | |
| 選 択 科 目 (領 域) | 文化史 | 日 本 建 築 史 | 講義 | 2年 | 後期 | 2単位 | 注2) 建築学部 |
| | | 西 洋 建 築 史 | 講義 | 1年 | 後期 | 2単位 | 注2) 建築学部 |
| | | 近 代 建 築 史 | 講義 | 3年 | 前期 | 2単位 | 注2) 建築学部 |
| | 自然科学史 | 科 学 論 A | 講義 | 2年 | 前期または後期 | 2単位 | 全学部 |
| | | 科 学 論 B | 講義 | 2年 | 前期または後期 | 2単位 | 全学部 |
| | 物 理 | 物 理 学 及 び 演 習 I | 講義・演習 | 1年 | 1Q | 1.5単位 | 先進工学部・工学部・情報学部 |
| | | 物 理 学 及 び 演 習 II | 講義・演習 | 1年 | 2Q | 1.5単位 | 先進工学部・工学部・情報学部 |
| | | 物 理 学 及 び 演 習 III A | 講義・演習 | 1年 | 3Qまたは4Q | 1.5単位 | 工学部 |
| | | 物 理 学 及 び 演 習 III B | 講義・演習 | 1年 | 3Qまたは4Q | 1.5単位 | 工学部(電気電子工学科) |
| | | 物 理 学 及 び 演 習 III C | 講義・演習 | 1年 | 3Qまたは4Q | 1.5単位 | 工学部(機械工学科・機械システム工学科) 情報学部 |
| | | 物 理 学 及 び 演 習 III D | 講義・演習 | 1年 | 3Qまたは4Q | 1.5単位 | 情報学部 |
| | | 物 理 学 概 論 I | 講義 | 1年 | 後期 | 2単位 | 建築学部 |
| | | 物 理 学 概 論 II | 講義 | 2年 | 前期または後期 | 2単位 | 建築学部 |
| | 化 学 | 化 学 及 び 演 習 I | 講義・演習 | 1年または2年 | 1Q | 1.5単位 | 先進工学部・工学部(機械工学科・機械システム工学科の25年度以前の入学生、電気電子工学科)・情報学部 |
| | | 基 礎 化 学 I | 講義 | 2年 | 1Q | 1単位 | 工学部(機械工学科・機械システム工学科の26年度以降の入学生) |
| | | 化 学 及 び 演 習 II | 講義・演習 | 1年または2年 | 2Q | 1.5単位 | 先進工学部・工学部(機械工学科・機械システム工学科の25年度以前の入学生、電気電子工学科)・情報学部 |
| | | 基 礎 化 学 II | 講義 | 2年 | 2Q | 1単位 | 工学部(機械工学科・機械システム工学科の26年度以降の入学生) |
| | | 化 学 物 質 論 | 講義 | 1年または2年 | 3Q | 1単位 | 工学部 |
| | | 化 学 現 象 論 | 講義 | 1年または2年 | 4Q | 1単位 | 工学部 |
| | | 化 学 概 論 | 講義 | 1年 | 後期 | 2単位 | 建築学部 |
| 生 物 学 | 生 物 学 | 講義 | 1年 | 1Qまたは2Q | 1単位 | 先進工学部 | |
| | 生 物 学 概 論 | 講義 | 1年または2年 | 前期または後期 | 2単位 | 工学部・建築学部 | |
| | 生 物 学 基 礎 論 | 講義 | 2年 | 前期 | 2単位 | 情報学部 | |
| 地 学 | 地 学 | 講義 | 1年 | 1Qまたは2Q | 1単位 | 先進工学部 | |

注1) 「社会教育」は教職科目と共通開講

注2) 建築学部は、文化史全て(「西洋建築史」「近代建築史」「日本建築史」)を必ず修得すること

注3) 上記学芸員課程上の必修科目は、卒業単位に算入されない

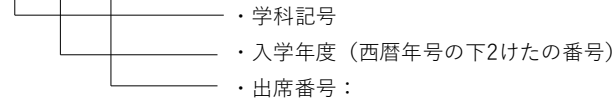
学生生活

1 学籍番号

学籍番号は入学時に学生個人に与えられる番号であり、転籍などによって異動しないかぎりは卒業するまで変わらない。ただし、建築学部については、新3年次に学科記号が変更される（②参照）。なお、学籍番号の決め方は下記の通りである。

① 下例のように2文字の学科記号と5けたの数字をハイフンで結んで表す。

【例】 A1 - YY 001 <20YY年度入学で機械工学科出席番号1番の学生を表す>



入学年度、学科・コースごとに原則として氏名の五十音順による001から始まる一連番号。ただし先進工学部(大学院接続型)は、201から始まる。

② 学科を表す記号は次の通り定める。

【先進工学部】

S1……生命化学科

S2……応用化学科

S3……環境化学科

S4……応用物理学科

S5……機械理工学科

SS……先進工学部大学院接続型（2年次からS1～S5のいずれかの振り分けられるが**学科記号の変更はない**）

【工学部】

A1……機械工学科

A2……機械システム工学科

C4……電気電子工学科

【建築学部】

DX……建築学部総合（**新3年次に学科記号がDXからDA、DBまたはDCに変更となる**）

DA……まちづくり学科

DB……建築学科

DC……建築デザイン学科

【情報学部】

JX……情報学部（2年次後期からJ0～J3のいずれかに振り分けられるが**学科記号の変更はない**）

J0……情報通信工学科

J1……コンピュータ科学科

J2……情報デザイン学科

J3……情報科学科

③ 転籍、編入学の場合は番号を変更し、下3けたの出席番号を、901以降の番号とする。

（ただし、建築学部内2年次終了時の転籍においては、下3桁の番号変更はない。）

2 学生証

学生証は、本学学生であることを証明すると同時に、通学定期券の購入をはじめ、授業出席確認、定期試験時などに必ず使用する。**在学中は常に携帯し、大切に扱うこと。**

◀表面▶



◀裏面▶ 学生証裏面シール (年1回、4月更新)

| | | | |
|-------|------|------|----|
| 学籍番号 | 氏名 | 在籍 | 学籍 |
| 現在所 | | | |
| 通学 | 八王子 | 八王子 | |
| 区間 | 東八王子 | 東八王子 | |
| 発行年月日 | 通用期間 | 発行駅 | 記号 |
| | ヶ月 | | |
| | ヶ月 | | |
| | ヶ月 | | |
| | ヶ月 | | |
| | ヶ月 | | |
| | ヶ月 | | |

■学生証を提示しなければならない時

- ①授業出席時（入室時（授業開始前）に必ずカードリーダーに学生証をかざして出席登録すること）
- ②定期試験等の時
- ③教務課窓口で各種証明書の発行を受ける時
- ④工手の泉（ライブラリサービス）での書籍の貸出時
- ⑤通学定期券購入時
- ⑥その他、本学教職員から提示を求められた時

- *裏面シールは、通学定期券の購入時に必要である。
- *当該年度の在籍確認印がないものは使用できない。
- *裏面シールの更新時、住所変更時、通学定期乗車券発行控の余白がなくなった時、通学区間の変更時には教務課に申し出ること。
- *学籍番号、氏名、年齢、現住所、現住所の最寄り駅を記入する。なお、故意に不正の記入があった時は厳重に処罰される。

■下記の場合には、速やかに教務課に申し出ること

1. 学生証の不具合

- ①出席確認が取れない時（ICの不具合）
- ②セキュリティのかかったエリアに入れない時（磁気の不具合）

2. 学生証の再発行

学生証を紛失または破損（表面不鮮明、折れ曲がり、傷による磁気読み込み不可等）した時は再発行が必要である。

※再発行の申請に必要なもの

- ①手数料2,000円
- ②身分証明書（運転免許証・保険証等）
- ③印鑑

3. 学生証の再交付（旧学生証と交換）※発行手数料は無料

学部の学生証の有効期限は原則4年間であるが、次の場合には学生証の再交付を受けること。

- ①氏名を変更した時
- ②有効期限が切れた時
- ③学籍異動（転籍、建築学部3年次学科配属）した時

4. 学生証の返還

- ①卒業、退学、除籍された時
- ②新たな学科配属となった時（新しい学生証と交換）
- ③学生証の有効期限が切れた時（新しい学生証と交換）
- ④再発行後に、前の学生証が見つかった時（前の学生証を返還すること。ただし、手数料は返金しない）

◀学生証取扱上の注意▶

学生証には、内部に精密な電子部品が内蔵されており、取扱いはによっては使用できなくなる場合がある。取扱いには十分注意すること。

- ①衝撃を加えたり、折り曲げたりしない。
- ②ズボンの後ろポケットや財布のボタンが当たる場所に入れて持ち歩くことは避け、なるべくカードホルダー（ハードケースタイプ）などに入れて携帯する。
- ③むやみにカード表面を擦ったりしない。
- ④磁気（マグネット、携帯電話等）に近づけない。
- ⑤車の中やストーブの近くなど高温または多湿になる場所に保管しない。

3 就学中の諸手続き

次の場合はそれぞれの所定の様式によって、すみやかに願出又は届け出なければならない。なお、学籍異動に関しては、なるべく早めに事務取扱窓口で相談のこと。願（届）用紙は事務取扱窓口にある。

1. 学籍異動について

| 事項 | | 備考 | 窓口 |
|-----|-------------------------------|--|-----|
| 休学 | 休学（学則第28条） | 病気その他やむを得ない理由で引続き6か月以上出席できない場合に限る。 | 教務課 |
| | 期間 | 休学期間は、1年を超えないものとする。ただし、特別の事情のある場合には、1年を限度として引続き休学を許可することがある。 通年休学 4月1日～翌年3月31日 前期休学 4月1日～ 9月30日 後期休学 10月1日～翌年3月31日 | |
| | 願出期日 | 通年休学 前年度の3月31日まで 前期休学 前年度の3月31日まで 後期休学 9月30日まで | |
| | 提出書類 | 休学願に理由を記し、保証人連署の上、次の書類を添えて所属学科の面談を経て、学長宛に願出しなければならない。 ①病気の場合は医師の診断書 ②病気以外の場合は、休学理由を証明する必要な証明書等 | |
| | 修業年限 | 休学期間は、在学期間に算入しない。 | |
| | 休学在籍料 | 6ヶ月＝60,000円 / 1年間＝120,000円 | |
| 復学 | 復学（学則第28条第6項） | 休学の理由が消滅したとき。 | |
| | 願出期日 | 前期から復学 前年度の3月31日まで 後期から復学 9月30日まで | |
| | 提出書類 | 復学願に理由を記し保証人連署の上、医師の診断書または必要な証明書を添えて、所属学科の面談を経て、学長宛に願出しなければならない。 | |
| 退学 | 退学（学則第29条） | 自己都合による退学と懲戒処分による退学（学則第31条）がある。退学は当該期の学費を納入した者が願出することができる。 懲戒処分による退学者に対しては、再入学を許可しない。 | |
| | 提出書類 | 自己都合による退学の場合は、退学願に理由を記し、保証人連署の上、学生証を添えて所属学科の面談を経て、学長宛に願出しなければならない。 | |
| | 願出期日 | 前期中の退学 9月30日まで 後期中の退学 3月31日まで | |
| 転籍 | 転科（学則第27条） | 原則として同一学年（進級学年）に限り許可することがある。（「工学院大学転籍に関する取扱い細則」参照） | |
| | 願出の時期 | 前年度の1月21日～1月末日 | |
| | 手数料等 | 出願手数料：500円 転籍料：10,000円 ただし、建築学部内2年次終了時の転籍においては、手数料および転籍料を要しない（「工学院大学転籍に関する取扱い細則」参照） | |
| 再入学 | 再入学（学則第29条第2項） （学則第30条第3項） | 本学を退学した者（学則第31条の懲戒処分による退学は除く）および学則第30条第1項第1号および第3号により除籍を受けた者（学費を滞納し督促を受けても納入しない者、休学期間満了になっても復学願を提出しない者）が、退学・除籍された年度の翌年度から起算して4年以内に再入学を願出たときは、出願年次の成績修得状況が退学・除籍前の在籍期間を通算して8年以内に卒業見込みのある場合に限り、学科の面接を受けて再入学を許可されることがある。 （「工学院大学再入学規程」参照） | |
| | 願出の時期 | 前年度の2月1日～2月15日 | |
| | 再入学金 | 再入学した年次の入学金の半額 | |
| | 学費 | 再入学した学科、年次に適用される学費を納入しなければならない。 | |
| | 手数料等 | 再入学選考料： 33,000円 | |

| 事項 | 備考 | 窓口 |
|----------------|--|----|
| 除籍 (学則第30条) | 次の各号の1つに該当する者は、除籍となる。 ①学費を滞納し督促を受けても納入しない者 ②在学年数8年を超えた者 ③休学期間満了になっても復学願を提出しない者 ④入学を許可されたが、在籍する意思のない者 | |

2. 身上の変更に係る届

| 事項 | 備考 | 窓口 |
|-----------|--|-----|
| 改 姓 名 | 変更届に戸籍抄本を添えて、窓口届け出ること。 | 教務課 |
| 通称名使用申請書 | | |
| 本 籍 変 更 | | |
| 住 所 変 更 | 学生及び保証人の住所変更は学生ポータルサイト「キューポート」上で学生自身が届け出ること。 | |
| 保 証 人 変 更 | 変更届に誓約書を添えて、窓口届け出ること。 | |

3. その他

| 事項 | 備考 | 窓口 |
|------------|--|-------|
| 休学期間中について | 休学期間中、本学での科目の履修および単位修得はできません。 学内施設及び学生ポータルサイト「キューポート」は利用できます。 | 教務課 |
| 欠 席 (届) | 2週間以上にわたり病気等で欠席するとき。診断書等証明書類の添付を要する。 | 教務課 |
| 施設等使用許可申請書 | 集会その他で教室または運動場等を使用するとき。 課外活動で物品を借用するとき。 | 学生支援課 |

4 証明書等の申請と交付

以下は在学生。卒業生についてはHPの以下URLを参照。

※https://www.kogakuin.ac.jp/student/campuslife/certificate/certificate_issuance.html

| 種別 | 手数料 (1通につき) | 備考 |
|--------------------------------|----------------|----------------------------------|
| 在 学 証 明 書 | 200円 | |
| 成 績 証 明 書 | 200円 | 卒業見込者の成績証明書は卒業見込証明書を兼ねる |
| 卒 業 見 込 証 明 書 | 200円 | |
| 教員免許状取得見込証明書 | 200円 | |
| 健 康 診 断 証 明 書 | 200円 | 健康診断受診後に発行可能(詳細は「キューポート」にて確認のこと) |
| 通 学 証 明 書 | 無料 | 学生証で購入できない路線の場合のみ発行 |
| 学 生 旅 客 運 賃 割 引 証 (学 割 証) | 無料 | |

※証明書コンビニ発行サービスを利用した場合の手料はHP上に記載する。

※証明書に記載される学年は、進級・卒業条件表に対応する「学年」を記載しています。

■証明書の申込方法

- ① 在学・成績・卒業見込・健康診断・学割証は証明書自動発行機で発行できる。(英文の各種証明書は窓口申込が必要となる)
※就職活動に使用する「卒業見込証明書」「卒業見込み付き成績証明書」は卒業論文(研究)および創造工学セミナーⅡ着手条件を充足した学生(4年生)のみが発行対象となる(3年生には発行しない)。
- ② 窓口で発行する場合は、窓口備付の申込書に必要事項を記入し、手数料分の証紙(券売機で購入)を貼付の上、提出する。
- ③ 証明書の申請の際には、必ず学生証を提示すること。

■通学定期乗車券の購入について

- ①交通各社指定窓口で当該年度の裏面シールを貼付した学生証を提示すれば購入できる。
- ②バス通学や新宿・八王子の両校通学等で通学証明書を必要とする場合は、教務課に申請する。

■学生旅客運賃割引証（学割証）について

- ① 学割証は学生個人の自由な権利として使用することを前提とされているものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度であり、使用目的は次の各号に限られている。
- ・ 休暇、所用による帰省
 - ・ 実験実習などの正課の教育活動
 - ・ 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
 - ・ 就職又は進学のための受験等
 - ・ 学校が修学上適当と認めた見学または行事への参加
 - ・ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
 - ・ 保護者の旅行への随行
- ② 学割証は片道100kmを超える場合に使用でき、有効期間は発行の日から3カ月であり、1枚で往復乗車券も購入できる。
- ③ 学割証は本人に限り使用できる。その他学割証裏面に記載された使用上の注意を守り、不正に使用することのないよう十分留意すること。

5 事務取扱案内

| 事項 | 取扱部署 |
|--------------------------------------|-----------|
| 授業に関する事（授業時間割、講義室使用管理、履修登録、授業日程、休講等） | 教務課 |
| 試験に関する事 | |
| 学籍に関する事（休学、復学、退学等） | |
| 学費に関する事 | |
| 諸証明書に関する事 | |
| 成績に関する事 | |
| 教職、学芸員、資格、研究生、科目等履修生に関する事 | |
| 課外活動に関する事（部活動諸届、施設使用願、学生との懇談会他） | 学生支援課 |
| アパート・下宿・指定学生寮に関する事 | |
| 学寮に関する事 | |
| 拾得物、盗難届等に関する事 | |
| 奨学金に関する事 | |
| 学生応急貸付に関する事 | |
| 学生教育研究災害傷害保険に関する事 | |
| アルバイトの紹介に関する事 | 健康相談室 |
| 学生の健康に関する事 | |
| 学生相談に関する事 | 学生相談室 |
| 就職活動に関する事 | 就職キャリア支援課 |
| 就職の斡旋に関する事 | |
| 就職関係推薦状発行に関する事 | |
| キャリア支援、インターンシップに関する事 | |

履修要項

1 単位制度と学修時間

1. 単位とは何か

すべての授業科目には単位数が設定されている。単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で示したものである。「1単位の授業科目」は「45時間の学修を必要とする内容」をもって構成することが標準となっている。学修時間には授業時間だけでなく、**予習・復習等教室外での自主学習時間も含まれる。**

2. 単位と授業時間

各授業科目の単位数は大学設置基準に準拠の上、工学院大学学則により1単位の履修時間を**授業時間および自主学習時間を合わせて45時間**とし、授業の方法に応じて次のように規定されている。

[1 単位に要する学修時間]

| 授業種別 | 授業時間 | 自主学習時間 |
|-------------------|-------|--------|
| 講義 | 15 時間 | 30 時間～ |
| 演習・外国語科目・実験・実習・実技 | 30 時間 | 15 時間～ |

工学院大学学則に基づき、各授業科目の授業は15週にわたる期間を単位として行うが、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることが認められる場合はこの限りではない。

3. 単位修得

単位の修得には、次の2点を満たすことが必要である。各授業科目の評価方法は、シラバスを参照のこと。

- ① 各年度に開講される授業科目の登録を行うこと
- ② 登録した科目を履修し、予習・復習時間を含めた学修に対して評価（定期試験・レポート課題・平常点評価など）を受け、合格評価を得ること。

各科目で十分な学修成果をあげ、単位を修得するためには、単位数と学修時間の関係を理解することが大切である。**授業時間内の学修だけでなく、自主的な予習・復習を心掛けること。**

4. 授業時間

授業時間は次のとおりである。

<通常>

| 1 時限目 | 2 時限目 | 昼休憩 | 3 時限目 | 4 時限目 | 5 時限目 | 6 時限目 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 8:30-10:00 | 10:10-11:40 | 11:40-12:30 | 12:30-14:00 | 14:10-15:40 | 15:50-17:20 | 17:30-19:00 |

<一部の2・3限連続授業>（詳細は担当教員に確認すること）

| 1 時限目 | 2 時限目 | 3 時限目 | 昼休憩 | 4 時限目 | 5 時限目 | 6 時限目 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 8:30-10:00 | 10:10-11:40 | 11:50-13:20 | 13:20-14:10 | 14:10-15:40 | 15:50-17:20 | 17:30-19:00 |

5. 履修登録できる単位数の上限（CAP制）について

① CAP制の趣旨

CAP制とは、1年間に履修登録できる単位数の上限を設けている制度のことであり、この上限を超える履修登録はできない。授業科目に設定されている単位は、すでに述べた通り1単位につき45時間の学修時間（授業時間と自習時間＜予習・復習にあてる時間＞を含む）を必要とする。よって、**履修した科目数に比例して、それぞれに必要な学修時間も増えることとなる。**履修登録できる単位数を制限することは、履修する科目について十分な学修時間を確保することができるよう、また学修した内容を真に身につけられることを目的としている。

② 履修登録の上限単位数

履修登録の年間上限単位数は、原則として **49 単位**（前期・後期・1～4Q、通年科目の合計）とする。夏期・春期等の集中授業は含めない。

③ CAP 制の特例措置

以下のとおり特例措置を設ける。

（1）通算GPAが高い学生に対する特例措置

前年度末日までの成績によって算出された通算GPAが3.5以上 かつ **前年度修得単位数が40単位以上の者**
→年間59単位まで履修登録を認める（+10単位）

※前年度修得単位数は、前期・後期・1～4Q・通年科目のみ（他大学科目は含まない）で算出する

※特例の対象となるかは学生ポータル「キューポート」で確認すること

（2）教職課程科目及び学芸員課程科目に対する特別措置

・教職に関する科目（学則別表第3教員免許状取得に必要な教職のための科目 及び 卒業単位数に算入されないその他の科目）は上限単位数に含めない

・学芸員課程必修科目は上限単位数に含めない

2 教育課程

本学の教育課程は、**工学の原理と応用を学び専門的な職業人になるとともに、幅広い教養をもった社会人になる**ことを目的として、総合教育科目群および各学科の専門共通科目群・専門科目群を合理的・有機的に系統づけた授業科目の構成となっている。この他に、教員免許状の取得を希望する学生のために教職課程が、また、学芸員の資格取得を希望する学生のために学芸員課程が設置されている。

1. 授業科目の区分

入学年度の学生便覧にある各学科**カリキュラム表**（学則別表第一）及び**進級・卒業条件表**（学則別表第五）で確認すること。また各学科カリキュラム表の**学位授与の方針**には、各科目を履修することで身につく**4つのディプロマポリシー**（**学位授与の方針**）の割合を示している。ディプロマポリシーの詳細は、ホームページを参照すること。

2. 授業科目の種別

| 授業科目の種別 | 種別説明 |
|---------|---|
| 必修科目 | 教育目的を達成するために必ず単位の修得を要する科目 |
| 選択必修科目 | 指定された科目群の中から科目を選択し、決められた単位数以上の修得を要する科目 |
| 選択科目 | 学生の自由意志により選択し、卒業条件などで定められた単位数を満たすために一定以上の修得を要する科目 |

3. 学年

各学科のカリキュラム表には標準履修学年が示してある。自身の履修学年より上の標準履修学年科目は原則、履修することはできない。

4. 履修期の種類

履修期の種類は以下の通りである。

| 4月～ | | 9月～ | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 通年 | | | |
| 前期 | | 後期 | |
| 1Q（前期の前半） | 2Q（前期の後半） | 3Q（後期の前半） | 4Q（後期の後半） |

注1) 詳細については、大学授業日程を確認すること。

注2) 1～4Qの授業は原則として、各8回とする。

注3) 前期および後期の授業は原則として、各15回とする。

3 卒業のために必要な条件

本学を卒業するためには、学則に則り、修業年限を満たし、学部・学科ごとに定められた卒業要件に必要な単位数を修得する必要がある。

1. 修業年限と在学年限、学籍

- ① **修業年限**とは、教育課程を修了して卒業するために必要な年数で**4年間**の在学を必要とする。
休学期間は在学年数に含まれない。
- ② **在学年限**とは、本学に学生として在学できる最長年数のことで、休学期間を除き**8年**である。
- ③ **学籍**とは、本学の学生としての身分を有することをいう。
学生は、入学と同時に**学籍**が得られ、卒業・退学・除籍により消滅する。

2. 卒業に必要な単位

学則に定める卒業要件を満たしていなければ、卒業は認められない。

卒業に必要な単位数の詳細は、入学年度の『学生便覧』にある**進級・卒業条件表**（学則別表第五）で確認すること。

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業

1 履修登録とは

単位を修得するためには、**事前に受講科目の登録が必要**である。このことを履修登録という。
 「学生便覧」「授業時間割表」「履修の手引き」「シラバス」をもとに計画を立て履修登録をしなければならない。
定められた履修登録期間に履修登録を怠ると、授業を受けることができず、単位も修得できなくなるので注意すること。

2 履修準備・計画と登録方法

大学における学修が高校時代までの学修と根本的に異なるのは、学生自らが履修計画を立て、自主的に授業を受けていく点にある。「**カリキュラム表**」で受講すべき授業科目を選んで履修計画を立て、「**進級・卒業条件表**」の条件を満たすように単位を修得していく必要がある。履修登録の方法については、「**履修の手引き**」で諸注意事項などを確認し、指定された期間内に「**キューポート**」で必ず登録すること。

3 科目名表記の注意点

科目名に数字やアルファベットの標記がある科目は、以下の定義に従っている。

| 科目名 | 定義 | 修得する順序 |
|-------------|------------|------------------|
| ○○○○1、2、・・・ | ステップアップ科目 | 修得順が必須である |
| ○○○○Ⅰ、Ⅱ、・・・ | 科目のレベルを示す | 修得順が必須でない |
| ○○○○A、B、・・・ | 科目のレベル差がない | 修得順が必須でない |

4 大学院科目の履修

本学大学院進学を予定している4年次生に大学院の開講科目を、先に履修することができる先行履修制度があり、概要は以下の通りである。[学部学生の大学院科目先行履修制度に関する内規より抜粋]

対象者

学部4年次在学学生で「卒業論文」、「卒業研究」、「創造工学セミナーⅡ」に着手しており、本学大学院への進学を希望している者

希望者の選考および受講許可

先行履修を希望する学生は、学部3年次または4年次中の受付期間に所定の申請書類を教務課に提出して願出しなければならない。

履修登録

学部在学中に先行履修できる大学院科目は**15単位**を上限とする。履修登録期間中であれば取消のみ可能。所定の履修登録期間以外での科目の変更・追加・取消は認めない。

受講料

無料

合格した科目の修得単位

- ・学部4年生次に履修し、試験に合格した大学院科目の単位は、大学院入学後に既修得単位として認定し修了に必要な単位数に算入することができる。
- ・大学院に進学しない場合には、取得単位は無効となる。
- ・学部在学中に先行履修し修得した科目が大学院入学時にカリキュラムに存在しない場合、先行履修科目として単位認定し、他専攻科目として修了単位数に含める。
- ・学部在学中に先行履修し修得した科目が大学院入学後に名称変更されている場合、変更後の科目に振り替える。
- ・学部在学中に先行履修し修得した各専攻の教職課程認定科目の単位は、専修免許状申請に使用できる。その他資格取得等については別途定める。

5 編入学生の既修得単位の取扱いと編入学後の履修について

編入学生のカリキュラム年度は編入学年度と異なるので、下表を参考に注意すること。

| 編入学年度（2026年度） | 適用カリキュラム年度 |
|---------------|------------|
| 2年次編入生 | 2025年度 |
| 3年次編入生 | 2024年度 |

1 授業形態

授業は、LMS（学修支援システム、本学では KU-LMS という）等を有機的に組み込んだ対面授業・遠隔授業を行う。授業形態の詳細は履修の手引きを、各授業の詳細内容についてはシラバスを確認すること。

| 授業形態 | 特徴と注意点 | 時限 | 受講形態 |
|---|--|-------------------|-------|
| ①対面 時間割上の曜日時限に担当された教室における対面の授業をベースとする* 時間割表記：[対面] | <ul style="list-style-type: none"> ・教室 / 実験室等で実施される ・出席の際は教室備え付けの出席端末リーダーにタッチすること ・基本、対面授業だが一部の授業回を遠隔で実施することもあるので教員の指示に従うこと | 2～5 限 | 対面 |
| ②ハイブリッド 時間割上の曜日時限に担当された教室にて実施し、オンラインツールを用いて同時配信を行う* 時間割表記：[ハイ] | <ul style="list-style-type: none"> ・対面で受講するときは、教室備え付けの出席端末リーダーにタッチすること ・遠隔受講の場合の要件（受講場所を問うか、問わないかなど）は各回の授業で指示があるのでそれに従うこと ・遠隔受講の出席確認方法は教員の指示に従うこと | 2～5 限 | 対面/遠隔 |
| ③遠隔（同時双方向） すべての授業を時間割上の曜日時限にオンラインツールを用いて実施する* 時間割表記：[遠隔(同)] | <ul style="list-style-type: none"> ・受講要件（受講場所を問うか、問わないかなど）は各回の授業で指示があるのでそれに従うこと ・出席確認方法は教員の指示に従うこと | 2～5 限 | 遠隔 |
| ④遠隔（オンデマンド） 音声付パワーポイント教材や録画した映像授業を定められた期限までに受講する 時間割表記：[遠隔(オ)] | <ul style="list-style-type: none"> ・1 限または 6 限に配置されているが、その時限に受講する必要はない。 ・一つの時限に複数の授業を履修可能。 ・受講や課題・小テストの期限は受講方法説明書の記載や教員の指示に従って対応すること ・課題は定められた期限までに提出すること ・質問は教員の指示に従っておこなうこと ・出席確認方法は教員の指示に従うこと | 1 限 または 6 限 | 遠隔 |

*1 回分のオンデマンド授業を除く

* 遠隔授業が卒業単位として認められる上限 60 単位について

学則第 35 条 2 により、遠隔授業が卒業単位として認められるのは 60 単位以下と定められているため、履修においては遠隔授業で修得する単位数に注意すること。ただし、**対面授業を 64 単位以上修得している場合は、遠隔授業の単位が 60 単位を超えることは差しつかえない。**

※授業形態が[遠隔(オ)&対面]となっている授業は遠隔としてカウントします。

2 授業への出席

履修科目の授業には、**毎回出席しなければならない。**単位制の基本となる授業時間について定めがあるように、出席状況は成績評価の前提条件である。対面授業においては、出席時に教室にあるカードリーダーに学生証をかざして出席登録をすること。遠隔授業においては、別途授業担当教員の指示に従うこと。

3 休講・調整・補講・授業時間割の変更について

1. 休講

休講の場合は、事前に「キューポート」の掲示で周知する。

休講の掲示がなく、40分経過しても授業が行われなかった場合は教務課で確認すること。

2. 補講

補講とは休講等に対する措置として行う授業であり、臨時で行われる。実施については「キューポート」の掲示で周知

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業

する。

3. 授業時間割の変更

授業の曜日・時限・教室・担当教員に変更がある場合は、事前に「キューポート」で周知する。

4 緊急時の授業措置

緊急時の授業措置は、下記1. 交通機関が不通の場合、2. 暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報の場合、3. その他の緊急事態の場合を基準に判断するが、あくまで**学長が決定する**。休講が決定した場合は、大学ホームページや「キューポート」で周知する。休講の通知がない場合は、原則として授業は実施する。

1. 交通機関が不通の場合

【新宿キャンパスの場合】

首都圏の JR および新宿に乗り入れている私鉄の大半が長時間に渡って不通の場合、休講となる可能性があるため、ホームページや「キューポート」を確認すること。

【八王子キャンパスの場合】

以下の路線のうち、いずれかの路線が不通となった場合は休講となる可能性があるため、必ずホームページや「キューポート」を確認すること。

- ・ JR 中央線（立川～八王子間）、京王線（京王八王子～調布間）が両方とも不通となった場合
- ・ 横浜線（八王子～橋本間）が不通となった場合
- ・ 西東京バス（工学院大学～JR 八王子・京王八王子間）が不通となった場合

※ 1 路線が短時間不通となった場合は、授業を休講とはしない

2. 暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報の場合

新宿キャンパスは東京 23 区、八王子キャンパスでは多摩南部に、暴風（雪）警報または大雨（洪水）警報が発令された場合には、授業が休講となる可能性がある。また、警報等が解除されても交通機関に影響が出ている場合は、1. 交通機関が不通の場合、の措置を適用するのでホームページや「キューポート」で確認すること。

授業実施中に警報が発令された場合、授業の継続・中止の判断は学長が行うとともに、学内の緊急放送および「キューポート」等で周知する。

なお、自宅付近の気象情報を十分に注意し、危険が伴う場合は無理に登校せず、自身の安全を確保すること。この場合は事後で構わないので、授業担当教員に報告すること。

3. その他の緊急事態の場合

上記以外の緊急事態の場合、学長の判断で決定する。

5 ハイブリッド留学

ハイブリッド留学とは、学生が、留学先の協定校では本学授業を日本語で受講し、生活は英語で過ごすというハイブリッドな環境による留学プログラムで、「まず海を渡る」ことを最優先に考えた本学独自のプログラムである。滞在地や実施時期など、詳細については本学ホームページにて確認できる。

ハイブリッド留学は、本学教員が留学先に渡航、またはオンライン授業を通して日本語で授業を行うため、参加にあたって英語力は問われず、留学先の授業料は必要ないため、留学費用の負担が少ないこと等が特長である。ただし、各学部・学科により成績等の条件を設けているので詳細は下記説明会等で確認すること。参加に際しては、「募集説明会」への出席が必須条件となる。説明会日時や参加申込などの詳細については、「キューポート」にて確認すること。また国際情勢や現地協定校等の事情により、プログラムを中止または変更することがある。

6 単位互換制度

単位互換制度とは他大学等の単位を一定の範囲内で自大学の単位としてみなし得る制度のことである。本学には二つの単位互換制度がある。

東京理工系四大学 単位互換制度

工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学および東京都市大学の四大学は、「東京理工系大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づき、1999年度から単位互換制度を設けた。これは、各大学で開設している授業科目を他の三大学の学生に対して門戸を開放する単位互換制度で、単位互換開放科目として履修できる。なお、大学によっては受講を制限する科目および受講者数を制限する科目があるため、教務課の窓口で履修相談すること。

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業

大学コンソーシアム八王子 単位互換制度

本学は大学コンソーシアム八王子に加盟しており、大学コンソーシアム単位互換協定に加盟している大学等の講義を履修できる。大学によって開講科目が定められているので、詳細は教務課の窓口で履修相談すること。

①履修について

| 項目 | | 摘要 |
|----------------|--------------|--|
| 対象学部・学科、学年 | | 本学学部生全員が対象 |
| 履修許可する単位互換開放科目 | 東京理工系四大学 | 他大学の単位互換開放科目。本学カリキュラム科目と同名称または類似科目でも履修可能。ただし、他大学第二部の単位互換開放科目を履修し、単位を修得しても、卒業に必要な単位数には換算されないので注意すること。 |
| | 大学コンソーシアム八王子 | 原則、他大学が提供するすべての科目を履修可能。本学カリキュラム科目と同名称または類似科目も履修可能。 |
| 単位互換開放科目の人数制限 | 東京理工系四大学 | 1科目3名まで |
| | 大学コンソーシアム八王子 | 制限なし |
| 履修可能な授業科目数の上限 | | 当該年度当たり4科目*まで *東京理工系四大学と大学コンソーシアム八王子の合計値であることに注意 |
| 履修許可の責任者 | | 所属する学科の学科長 |
| 履修登録時期 | | 前期科目の場合は4月上旬、後期科目の場合は9月中旬ごろに「キューポート」で案内を出すので、内容をよく確認すること。 |
| 聴講料等 | | 聴講料、入学検定料、入学金等は免除。ただし、実験・実習等で特別にかかる費用は実費徴収とする。 |

②単位認定について

受け入れ大学からの成績評価に基づき、本学で単位認定を行う。

単位認定された科目は、進級・卒業に必要な単位の内数として算入できる。

ただし、学科の指定がある場合には進級・卒業に必要な単位数として加算されないことがあるので、進級・卒業条件表に記載されている内容を必ず確認すること。

7 単位認定型インターンシップ

インターンシップは、「学生が在学中に自らの専門、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」であり、教育の改善・充実および学生の学修意欲の喚起、高い職業意識の育成などの意義を有するものである。

| 種別 | インターンシップA | インターンシップB | 学外研修 |
|-------|--------------------------------|-----------|----------|
| 履修学年 | 1～2年生 | | 3年生 |
| 単位 | 1単位 | 2単位 | 2単位 |
| 実施期間 | 実働5日間以上 | 実働10日間以上 | 実働10日間以上 |
| 実施時期 | 原則として夏期休暇中に行う。 | | |
| 履修登録等 | 説明会を開催する（日程等はキューポート/掲示を確認すること） | | |

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業

1 試験受験の心得

合同定期試験・学期末筆記試験は、工学院大学試験規程に基づき実施する。

なお、受験に際し、次の点に注意すること。

- ① 試験開始10分前までに、試験会場に入室し着席すること
- ② 学生証（仮学生証を含む）を机の上に提示すること
- ③ 机には一人おきに着席すること
- ④ 筆記用具及び許可された物品以外のものは、原則として各自の足元に置くこと
- ⑤ 試験教室内では、携帯電話の電源を切り、カバンなどに入れて机の下に置くこと
- ⑥ 試験実施時間中に、他者と物品の貸借をしないこと
- ⑦ 不正行為もしくは不正行為と疑われるようなまぎらわしい行為をしないこと
- ⑧ 答案用紙は解答の有無にかかわらず、試験終了時に必ず提出すること
- ⑨ その他、試験実施時間中は試験監督の指示に従うこと。

※遠隔試験においては、別途授業担当教員の指示に従うこと

不正行為を行った者は懲戒される。

懲戒は不正行為の種類により訓告、停学もしくは退学とする。

訓告を受けた者は不正行為をした受験科目の成績が無効となる。

停学および退学となった者は不正行為をした受験期間の受験科目全部の成績が無効となる。

不正行為を行い、懲戒処分となった結果、奨学金の停止や、留年による卒業の延期で内定が

取り消されるなど、学生生活に多大な影響を及ぼすことになるため、

不正行為は絶対に行わないこと。

2 成績評価方法の種類

個々人の学習の到達度を確認し、あわせて教育活動の成果を評価するために

主に以下の試験が実施される。

1. 合同定期試験

複数の教員が合同で担当する同一科目やオンデマンド科目等で、年間学事日程で指定される試験期間内に実施する試験

2. 学期末筆記試験

個々の教員が、学事日程上予め設定された週に実施する試験

3. 授業内で行われる試験

4. レポート試験

※卒業論文試験は、論文、計画又は実験報告について随時行う。

試験時間割表に掲載されるのは、合同定期試験・学期末筆記試験として実施される試験のみのため、注意すること。

授業内で行われる試験、レポート試験で不正行為を行ったものは学生懲戒規程に基づき、懲戒となる。

(合同定期試験・学期末筆記試験については **1** 試験受験の心得を参照)

試験の成績評価は、A+、A、B、C、D、Fの6段階とし、F以外を合格とする。

成績評価方法の詳細については、それぞれ科目のシラバスを確認することができる。

また、試験に関する特記事項および受験条件が指定されている場合があるため、よく確認すること。

3 試験時間割発表時期

試験時間割発表時期は以下である。

○合同定期試験時間割

原則、毎年度4月1日にキューポート掲示で発表する。

※なお、試験教室配当については学期末定期試験時間割の発表と同時期に公開される。

○学期末筆記試験時間割

原則、試験開始日の1週間前にキューポート掲示で発表する。

4 追試験制度

正当な理由によりやむを得ず試験を受けられなかった学生に対して、
学事暦で定められた日程で追試験が実施される。
学生自身が所定の方法に必要な証明書を準備の上、申請する必要がある。

**ただし、追試験申請の対象となるのは合同定期試験または学期末筆記試験として実施される試験のみであり
授業内で行われる試験は対象外である。**

なお、追試験受験の可否については試験委員会にて審議のうえ決定されるため
申請理由や、申請不備によって追試験が受験できないことがある。

※追試験に関する詳細、申請方法等は試験時間割発表と同時にキューポート掲示で公開する。

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業

1 成績評価の種類

科目担当教員が下表にしたがって成績評価を行う。

| Grade (評価) | 評価基準 | Grade Point (GP) | 合否 |
|---------------|--------------------------------------|------------------------|-----|
| A+ | 到達目標に達しており、非常に優秀な成績をおさめている | 4 | 合格 |
| A | 到達目標に達しており、優秀な成績をおさめている | 3.67 | |
| B | 到達目標に達しており、良好な成績をおさめている | 3 | |
| C | 到達目標に達している。 | 2 | |
| D | 到達目標に達しているが、習熟を確実にするために再度受講することを推奨する | 1 | 不合格 |
| F | 到達目標に達していない | 0 | |

2 GPAとは

1. GPA (グレード・ポイント・アベレージ) について

本学では、学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学修への取組みに役立つよう、**科目の成績評価の平均を数値で表した GPA (Grade Point Average/グレード・ポイント・アベレージの略)**を算出している。GPA は学修の質を評価する成績評価の国際標準となっており、**合格した科目だけではなく不合格科目も算出対象となるのが大きな特徴**である。したがって、学生には自らの履修 (履修登録を含む) に対して、より真剣に取組むことが求められる。算出した GPA は、キューポートの成績照会メニューに掲載する。

2. GPAの種類 (2種類)

① **通算 GPA** : 入学時から更新日までの成績評価の平均値

② **単年度 GPA** : 当該年度の成績評価の平均値

3. GPAの計算式

① **通算 GPA** =

$$\frac{\{(A+\text{の単位数} \times 4) + (A\text{の単位数} \times 3.67) + (B\text{の単位数} \times 3) + (C\text{の単位数} \times 2) + (D\text{の単位数} \times 1) + (F\text{の単位数} \times 0)\}}{\text{入学時から成績評価 (不合格を含む) が確定した科目の総単位数 (同一科目は 1 回分を算入)}}$$

- ・ 計算日時時点で成績が確定した科目のみ計算対象とする。
- ・ 小数点以下第 3 位を四捨五入する。
- ・ 「不合格科目」の単位数は分母・分子両方に含む。
- ・ 「再履修・リピートした科目」の評価が従前より高くなった場合、低い評価の単位数は分母・分子両方から除外し、高い評価のみを分母・分子両方に含む。
- ・ 「再履修・リピートした科目」の評価が従前より低い、もしくは同じ評価となった場合の単位数は分母・分子両方から除外する。
- ・ 「教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の必修科目などの卒業に必要な単位数に算入されない科目」の単位数は分母・分子両方から除外する。

② **単年度 GPA**=

$$\frac{\{(A+\text{の単位数} \times 4) + (A\text{の単位数} \times 3.67) + (B\text{の単位数} \times 3) + (C\text{の単位数} \times 2) + (D\text{の単位数} \times 1) + (F\text{の単位数} \times 0)\}}{\text{当該年度に履修登録した総単位数}}$$

- ・ 計算日時時点で成績が確定した科目のみ計算対象とする。
- ・ 小数点以下第 3 位を四捨五入する。
- ・ 「不合格科目」「再履修・リピートした科目」「再履修・リピートする前の科目」の単位数は分母・分子両方に含む。
- ・ 「教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の必修科目などの卒業に必要な単位数に算入されない科目」の単位数は分母・分子両方から除外する。

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業

4. GPAの更新時期

- ① 通算 GPA = 毎年度 9 月 30 日及び 3 月 31 日
- ② 単年度 GPA = 毎年度 9 月 30 日及び 3 月 31 日

5. 科目振替時の評価方法

科目名称の変更により、入学年度のカリキュラム表にあった科目が履修できなくなった場合、名称変更後の科目(振替元科目)を修得することで旧名称科目(振替先科目)を修得したとする「科目振替」が行われる。原則科目振替時には、振替元科目の評価が振替先科目の評価として採用される。

なお、科目振替の対象科目については別途「科目変遷表」で確認すること。

6. 編入学者・再入学者の評価方法

入学前に本学もしくは他大学等で修得し、本学で単位認定された科目の評価は GPA の計算に算入しない。

※ただし、再入学者のうち、GP 評価されていた科目については算入する

3 成績発表時期

成績は 6 月上旬、9 月上旬、11 月上旬、3 月上旬にキューポートで発表される。

成績発表日は、授業日程表を参照すること。

4 成績質疑

発表された成績について質疑がある場合は、授業担当教員に成績質疑をすることができる。

大学
で
学
ぶ

履
修
登
録

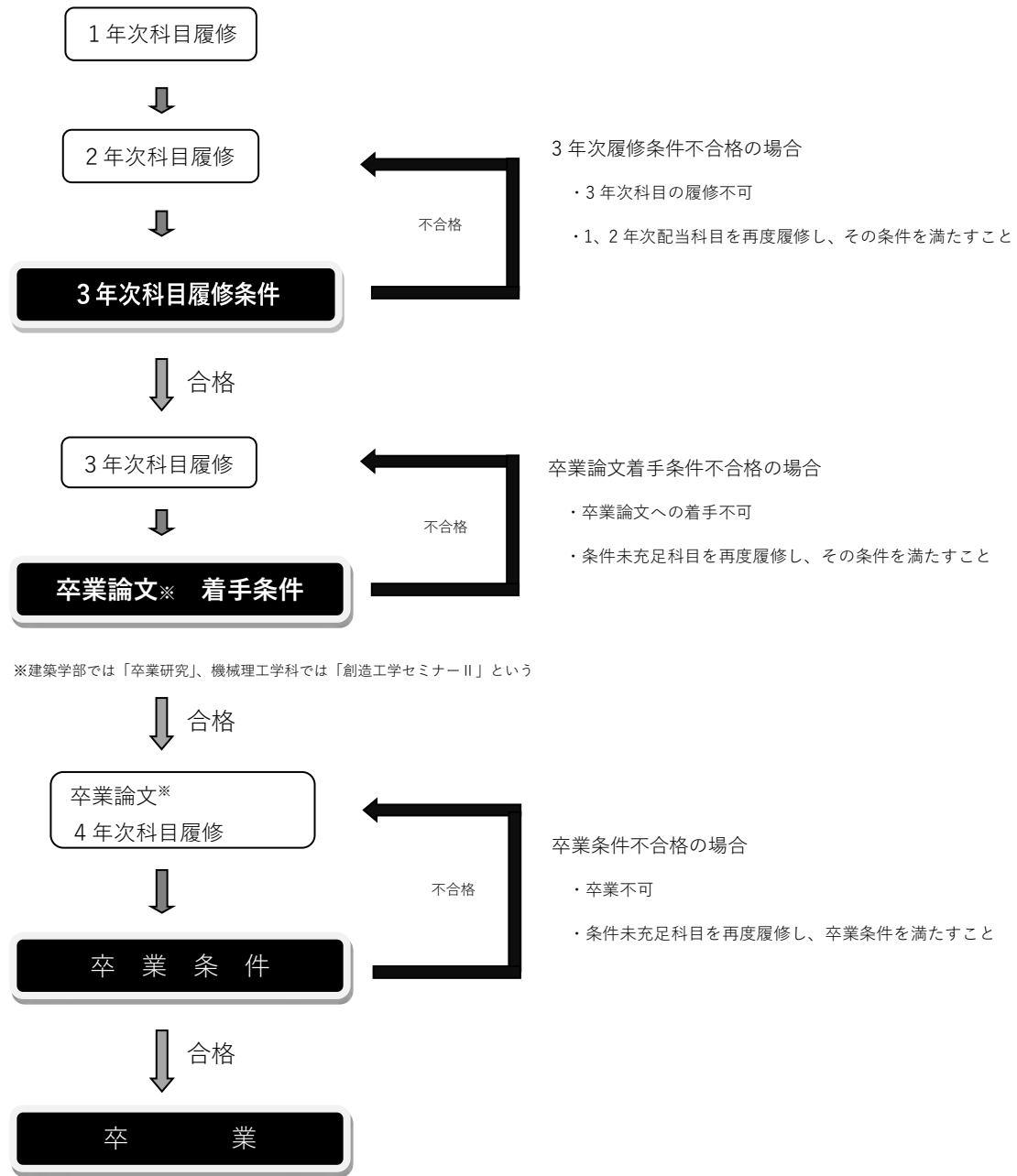
授
業

試
験

成
績
と
単
位
の
認
定

進
級
・
卒
業

1 入学～卒業までのステップ



| |
|----------|
| 大学で学ぶ |
| 履修登録 |
| 授業 |
| 試験 |
| 成績と単位の認定 |
| 進級・卒業 |

2 3年次科目履修条件

3年次の科目を履修するためには、各学科が定める修得単位数を満たしていることが条件となり、規定単位数に満たない場合は3年次科目の履修を認めない。3年次科目履修条件は各学科で異なるので、必ず入学年度の進級・卒業条件表を確認すること。

3 卒業論文着手条件

卒業論文・卒業研究・創造工学セミナーIIに着手するためには、3年以上在学し、各学科が定める修得単位数を満たしていることが条件となり、規定単位数に満たない場合は履修を認めない。卒業論文着手条件は各学科で異なるので、必ず入学年度の進級・卒業条件表を確認すること。

4 卒業条件

卒業するためには、4年以上在学し、工学院大学学則に定める修得単位数を満たしていることが条件となる。卒業判定は4年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定する。

5 卒業および学位

本学を卒業した者に授与する学位は、次のとおりである。

| 学 部 | 学 位 名 |
|---|--|
| 先進工学部 生命化学科 応用化学科 環境化学科 応用物理学科 機械理工学科 | 学士(工学) 学士(工学) 学士(工学) 学士(工学) 学士(工学) |
| 工学部 機械工学科 機械システム工学科 電気電子工学科 | 学士(工学) 学士(工学) 学士(工学) |
| 建築学部 まちづくり学科 建築学科 建築デザイン学科 | 学士(建築学) 学士(建築学) 学士(建築学) |
| 情報学部 情報通信工学科 コンピュータ科学科 情報デザイン学科 情報科学科 | 学士(工学) 学士(情報学) 学士(情報学) 学士(情報学) |

大学で学ぶ

履修登録

授業

試験

成績と単位の認定

進級・卒業